

確かな学力を育てる「生徒がいきいきと学ぶ授業」を目指して
～学習内容の定着とICTの効果的な活用～

1 単元名 世界の諸地域（ヨーロッパ州－国どうしの統合による変化－）

2 目 標

- ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観する中で、特に国家間の統合に関心を持ち、設定された学習テーマを意欲的に追究しようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ヨーロッパ州の国家間の統合についての社会背景や理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ヨーロッパ州の統合の成果や課題について様々な資料から適切な情報を収集選択し、図表等にまとめることができる。
(資料活用の技能)
- ヨーロッパ州について、自然環境、生業、生活・文化、歴史的背景などを概観し、小国が多いこと、地域により異なる産業が盛んなこと、世界経済における地位が低下してきたことなどの基礎的・基本的な知識を理解している。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

現在の国際政治・国際経済の大きな流れの中で、グローバリゼーションと共に、地域統合という考え方が非常に重要な意味を持つようになってきている。ヨーロッパのEUを始め、北アメリカのNAFTA、南アメリカのMERCOSUR、アフリカのAU、そして環太平洋地域のTPPなど世界各ブロックでの地域統合や経済面での協力がますます進展を見せている。ここ日本もその国際的な流れの中でTPPへの参加など、私たちがニュース等で耳にする身近な問題となってきた。

中学校社会科学習指導要領「地理的分野」2内容(1)世界の諸地域では、世界を6つに分け、それぞれに主題を設定し学習を行うこととなった。それらの6つに分けた州規模で地域的な特色を明らかにすることが求められており、また生活体験と結びつきの強い具体的な事例を用いることが重要となっている。さらに、「我が国との比較や関連を図る視点をもって主題を定めること」によって、世界の諸地域の人々の生活の様子を様々な面から理解できるようにしていくことが重要である。

そこで本単元では、ヨーロッパの統合による変化について経済面や政治面の視点から考察できるようにすることやヨーロッパ州の今後の課題についての考えを持つことができるようにしていくことをねらいとしている。学習を通し、地理的内容や地域統合の背景や条件についてグループで話し合い、考えを深化させていく。それらの活動を通して培った力を基に、生徒達がしっかりと自分の考えを持つことのできる学習へとつなげていきたい。

(2) 生徒の実態

事前アンケート結果 (在籍 35名 調査人数 35名 平成 25年 9月 19日実施)

項 目	結 果
1 あなたは、人とコミュニケーションをとることは大切ですか。	はい 35名 いいえ 0名
2 あなたは、人前で発表することは好きですか。	はい 7名 いいえ 28名
3 「EU」という言葉を聞いたことがありますか。	はい 3名 いいえ 32名

人とコミュニケーションをとることは大切だと思う気持ちやほとんどの生徒が自分の考えを持っていながらも人前で発表することかなりの抵抗がある。その理由としては「恥ずかしい」や「緊張してしまう」「苦手」「間違えたら嫌だ」などの意見が挙げられていた。これらの結果から、友だちと関わりながら授業を進めることや授業の中で分かることが自信となり、学ぶことの意味や人前で発表することの楽しさを実感できる授業展開を行っていきたいと考えた。

また、今回取り扱う「EU」という言葉についてはほとんどの生徒が知っておらず、聞いたことすらない。視点を明確にし、計画的に学習を進め、地域統合が進んだ理由や条件について考察していけるようにする。その際、様々な角度から物事を考えることができるよう補助資料を用意したり、視覚に訴える写真資料や動画資料などを投影したりしながら、生徒らの学習内容の定着を図っていく。

(3) テーマに迫るための手だて

本時では、ICTを導入、展開、終末の3つの場面で用いる。導入では動画資料を使い、現在起きている世界情勢について知ることで学習への動機付けを行う。展開では、主題図をいかに読み取るか、読み取る視点について確認する。終末では本単元のヨーロッパ州の現状についての動画を見ることにより、学習してきたことを整理しまとめへとつなげていきたいと考えている。

4 学習と評価の計画（5時間扱い 本時は5校時）

次	時	学習内容	関	思	技	知	評価規準
一	1	ヨーロッパ州の国々の位置と国名、自然環境の概要をつかむ。	○		◎		ヨーロッパの国々の位置と国名を調べたり、自然環境について白地図にまとめたりすることができる。
	2	ヨーロッパ州の特色を人口と民族、産業の面から捉える。	○			◎	地域により異なる農業がさかんなこと、世界経済における地位が低下してきたことなどを概観し、理解している。
	3	ヨーロッパ文化の共通性を知る。	○			◎	ヨーロッパの国々の文化について、似ている点を2つ挙げ、統合を進めることができた理由について理解している。
	4	ヨーロッパの統合の理由について考える。	○	◎			EU統合の内容について、工業、人々の移動、交通の3つの視点から説明している。
	⑤	ヨーロッパの課題について考える。		◎		○	ヨーロッパ州や現状や課題を多面的・多角的にいう視点から考察し、ヨーロッパの特色を捉えている。

5 本時の学習

(1) 目標 ヨーロッパ州の現状や課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(2) 準備・資料 プロジェクター、パソコン、NHK for School、ワークシート、実物投影機

(3) 展開

時間	学習内容及び活動	授業形態	支援・援助の留意点及び評価方法 ○は評価の観点(方法)※テーマに迫るための工夫
5	1 本時の学習課題を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ヨーロッパでは、どのような課題をかかえているだろう。</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・Youtubeを用いて「ギリシャ危機」の動画を見せ、生徒の動機付けを図る。 ・本時は、現在のヨーロッパの課題について考える時間であることを伝え、学習の見通しを持たせる。
18	2 国内総所得の主題図を読み取る。 (1) 国民総所得の少ない国について読み取る。 <予想される生徒の考え> ・ルーマニアとブルガリアが少ない。 ・東側に少ない国が多い。 (2) 国民総所得の多い国と少ない国の分布の特徴をまとめる。 <予想される生徒の考え> ・北側と西側に高い国が多い。 ・東側と南側に低い国が多い。 (3) EU加盟国の地図と合わせて国ごとの違いを読み取る。 <予想される生徒の考え> ・新しく加盟した国が低い。	個人	<ul style="list-style-type: none"> ※プロジェクターで主題図を拡大したものを見せ、主題図を読み取る視点を伝える。 ・「EU各国の一人あたりの国民総所得」と「EU加盟国の拡大」の主題図を比べやすいように作成したワークシートを配る。 ・なかなか読み取ることでできない生徒には、凡例について再度確認するように、声かけをする。 ・順に課題を伝え、一つずつ主題図を読み取るようにしていく。 ・読み取ったことを発表させ、板書し意見をまとめていく。 ○主題図を正確に読み取ることができる。 (発表・ワークシート・ノート) ・一人ひとりの国民総所得に東西差や南北差があることを読み取らせ、EU域内の経済格差が大きいことに気付かせる。
17	3 どのような課題をかかえているかを考え、発表する。 <予想される生徒の考え> ・紛争が起こるのでは。 ・うらやましい。 ・移住をしてしまうのでは。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図から読み取ったことを基にすることで根拠を持たせ、どのような課題をかかえているかを考えていくようにする。 ・話し合ったことは、グループのワークシートにまとめさせる。 ※ワークシートを実物投影機で映して発表させる。 ※「NHK for school」を用い、ヨーロッパの現状についての知識の定着を図る。
10	4 本時の学習内容のまとめと次時の学習の確認をする。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・国家間の統合によって、ヨーロッパ州の国々はどのように変化したのかという観点から本時のまとめを書くように伝える。 ○ヨーロッパ州の現状や課題を多面的・多角的に考察し、表現している。(ワークシート・発表) ・次時では、アフリカ州について学習を進めることを伝える。